

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域社会の中で暮らすことの意味を理念に入れ、理念を目の付くところに掲げ、意識しやすいようにしている。月一回の全体会議で実践について話し合っている。	理念を玄関とホールに掲示し、職員は常に理念を踏まえて利用者とともに念頭に置き、一人一人に寄り添い支援につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	感染症の影響で交流行事は中止されているが、日頃の挨拶や積雪時の周辺道路の雪かきなどは率先して行っている。	事業所として町会費を納め、回覧板を回しているが、新型コロナ流行以前の地域との交流や育成会との関係も、まだ回復はできていない。その中でも民生委員の方との関わりや隣組の方から花をいただくなど、できることから少しずつ再開している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を兼ねた行事を計画し、地区の役員の皆さんに、なでしこの生活の様子を知って頂いている。高齢者の対応について、災害時、協力し合うことを申し合わせた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議を定期的開催している。施設の行事や利用者の状態、動向などをまとめた文書を配布し、意見を募っている。	運営推進会議は2ヶ月に一度、市高齢者介護課職員、区長、ご家族等が参加して開催している。事業所の現状報告や意見交換を重ね、事業所運営に反映させている。また、家族の方々には午前中より集まって頂き庭の枯れ木や落ち葉のかたづけ等事業所の整備のお手伝いもしていただいている。	
5	(4)	市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に参加いただき、ホームの取組等報告できている。中止の場合文書を配布している。市の連絡協議会の委員として参加している。	管理者は市の連絡協議会の委員を行っており、市との連携に努め、困りごと等は相談している。また、介護認定審査は調査員がホームに来訪し、職員が対応しているが、立ち会われる家族もいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間は防犯のため玄関の施錠は行っている。月一回全職員参加の勉強会を行い、身体拘束について理解し、しないケアを実践している。	玄関は夜間以外日中の施錠はしていない為、所在確認は常に職員の念頭にある。転倒等の配慮が必要な方の部屋はご家族の同意の上でセンサーを設置している。職員会議では、身体拘束・高齢者虐待防止の勉強会を資料を読み合わせるとともに感想を発表して、レベルアップに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての研修会に参加し、知り得た情報を全体会議にて報告説明している。その他に資料を毎月配布し、読み合わせし各自の意見をまとめ意見交換している。		

なでしこ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加し、全体会議で報告することで共有を図っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	落ち着いた雰囲気の中で、十分な時間を取り説明し、疑問に答えている。契約後も意見や質問を受ける体制をつくり、不安のないよう配慮している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に第三者委員の連絡先を掲示している。また意見箱を設置するとともに、職員に意見を話しやすい関係を作り、実際頂いた意見は反映できる体制が出来ている。	新型コロナの5類移行を受け、状況を見つつ行事を再開している。利用者ご家族の知人による「ハンドベルコンサート」を行い、利用者、職員ともに歌ったり笑ったりと楽しんだ。また、ボランティアによる庭の除草剤散布、花植え等の作業を行っていただいた。ご家族にはなるべく事業所に足を運んで頂いて、顔を見ての近況報告や意見交換に努めており、ご意見を職員で共有している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回の全体会議では、事前に各職員は担当利用者の生活について、話し合いたい項目を記録し、活発な意見交換を行っている。	全体会議を月末に開催し、管理者からの話、法人からの連絡、各種勉強会、職員からの提案、意見交換等を行って運営のサービス向上に活かしている。また、人事考課制度があり、職員は管理者と半年に一度、個人面談を行い意見等を述べるとともに理念共有の機会としている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の希望休日は体力的・精神的な負担も考慮し勤務表を作成している。職員個々に担当利用者、係分担役割を持ってもらうことで、やりがいを持てるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部外部の研修に参加できるよう、告知するとともに、職員の受け持っている係に関する研修は参加後、ミーティングにて意見交換している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修に参加し交流を図れるよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者の事前情報の把握と、入居後の様子観察を行う。気持ちに寄り添うことを心掛け、会話を多く持つことで、言葉の中にある思いや、希望、不安を知ることが出来るよう、関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	心安い、話しやすい雰囲気づくりを心掛け、家族の思いを知ることが出来るよう、関係作りに努めている。家族の話された言葉を記録に残し、情報の共有を図っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所に至るまでに、本人、家族との話し合いの中から、以前の生活の様子を知り、それまでの生活の継続ができるよう支援する。その後会議にて検討していく。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	暮らしの中で、利用者と情報共有を行う。相談、話し合いながら、共に生活を行って行けるよう努めている。本人の持っている力や希望を実現できるように、常に心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の生活の情報を定期的に知らせている。ケアについては事前にご家族に相談して行うよう努めている。話しやすい雰囲気作りに留意している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人、知人が訪問しやすい環境を作るよう努めている。電話での交流も行っている。また利用者にとって大切な思い出の場所、人、時代について語れるよう傾聴共有に心掛けている。	生活史や日頃のケアの中で得られた情報は職員間で共有して、実際の支援に活かしている。職員家族の美容師が来訪し、ほとんどの利用者が馴染みの関係にあり、カットを行っている。携帯をお持ちの方もいるが、ホームの電話でご家族との連絡を取り合っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お互いに認め合ったり、助け合ったり利用者同士の関係作りに留意している。孤立することのないよう、職員が間に入り、安心できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの終了したご家族との交流も絶やす事がないように関係作りに努めている。ボランティアや野菜の提供等協力して下さっている。住み替えが必要になった場合は情報詳細を伝達している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	共に過ごす時間を多く持つことで、普段の生活の様子や会話から、また必要に応じて家族も交え、利用者の希望、思いをくみ取る。職員間で情報を共有し、サービスに繋がっている。	日々の寄り添いのケアの中より思いや意向の把握に努め、利用者が日頃それとなく発する「つぶやき」や行動を記録している。職員は引継ぎの中で共有して思いを受け止めている。意思疎通が困難な方には表情や行動から読み取ってサービスの向上に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	書式を使い生活歴の把握を行う。ご家族から様々な情報を得られるよう、関係作りに留意している。また、普段の会話を多く持ち、本人の言葉を大切にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の生活の中で、利用者の言葉、表情から思いを捉え記録に残し、希望する事、こうありたい願いを、職員が共有し、満足できる生活に繋がられるよう努力している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は利用者、家族の希望、意見から、担当者、ケアマネが中心に作成し、職員会議で意見を求め反映している。	職員は利用者の1~2名を担当している。介護計画は、家族からの意見、要望など把握し、利用者の体調などを総合的に判断して担当職員が意見を述べ、ケアマネージャーが作成している。状態に変化が見られないときは12ヶ月で見直しを行い、状態に変化が見られた時は適宜、見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録は日々の様子、ケアプランの実施状況について記入し、情報共有、サービスの実践につなげている。ニーズの把握に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の体調の変化に伴い、ご家族の意向を聞きながら、対策やサービスの変更も柔軟に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議を2か月に一回開き、地域の役員の皆さんから地域の情報を確認できる機会になっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の受診は基本的には家族対応だが、情報提供は行なっている。またかかりつけ医と協力医は月一回の往診があり、緊急時は電話にて支持を得ることが出来、連携がとれている。訪問歯科も希望によって対応している。	若干名の利用者はかかりつけ医の月一回の往診を受けており、殆どの利用者は協力医の月一回の往診を受けている。法人の看護師と連携が取れている。相談や来訪があり、手厚い体制が整っている。歯科も、殆どの利用者が協力歯科の往診を受けている。薬は協力医より契約薬局へ連絡が入り、事業所に届けていただいている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日頃、気になる事があった場合は法人の看護師に相談できる体制がある。体調によっては訪問看護師の受け入れも行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	今までの生活の情報を提供している。また、退院に向けてのカンファレンスなどにも参加し、安心したホームでの暮らしになるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者、家族が何を希望しているのか、主治医、訪問看護師を交えて話し合い、ホームとして何ができるか方針を決め、支援できるように努めている。	ご家族に重度化や終末期についての方針や取り組みを入居時に説明をしている。終末期を迎えた時点で家族、医師、訪問看護師、ホームで改めて取り組みについて話し合いを行って、家族の意向を確認の上で、医師の指示に基づき支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命講習に職員は参加したり、繰り返し訓練を行うことで実践力を身に付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年三回、火災、地震、水害を想定した訓練を実施している。職員皆が同じ行動をとれるよう努めている。防災訓練の様子を運営推進会議にて報告し地域の役員の皆さんに知って頂いている。	ハザードマップの点検は、管理者が行い、災害訓練を行っている。ホーム近隣の万水川が氾濫の危険があることが最近分かったので、2階への避難誘導を行った。ヘルメットは、居間及び防災頭巾と一緒に、出入口の壁に準備してある。職員の緊急連絡網の確認訓練はSNSの一斉配信で時折行っている。食料品は人数の一週間分準備があり、賞味期限の近いものから使って、入れ替えも適切に行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格の尊重は常に意識し、声掛け等日々の関わりを振りかえり、尊厳を大切にしよう心掛けている。利用者の表情から些細な事でも気がつくことができるよう心掛けている。	呼び掛けは苗字にさん付けでお呼びし、言葉遣いや接し方に配慮して、明るく明朗な態度で優しく接している。訪問時も、障子越しに利用者職員との歌やかな取りに興じる笑い声が聞こえ、穏やかな日常が伝わってきた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話の中で、利用者の思いや希望を引き出せるよう努めている。援助前の説明と意志決定を伺い確認している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活のメリハリを考え、基本的な流れはあるが、その時々希望に柔軟に対応している。やりたい思いに気付けるよう留意している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝、洗顔時に身だしなみについて個々の力に合わせて支援している。外出時、入浴時服装等なは決められるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の食べやすい形状に配慮し、全員が同じ献立を、楽しんで食べられるよう留意している。用意から片付けのうちに、利用者主導の場面があるよう心掛けている。	冷蔵庫内の食品と献立が重ならないように買い物は職員が行い、夜勤者が朝飯、お昼は早番、夕飯は遅番が作っている。自力摂取の方は三分の一強、全介助の方が三分の一、一部介助の方が数名の状況である。お誕生日は職員の手作りケーキでお祝いをしている。キッチン、利用者のお手伝いや立ち寄るので、安全を考慮して、IHを使用している。湯呑、茶碗、箸等の食器は使い慣れた物を使って頂いている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量の把握には常に注意している。好みの物を用意し、少量ずつ何回かに分けて摂取して頂くなど、個々に合った摂取量の確保を職員間で共有している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々に合わせた口腔ケアを支援している。歯科の助言も取り入れて行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、状態を知った上で話し合い、個々に合ったトイレ誘導の声掛け、促しを行っている。体調によりオムツ対応の方も、自立に向けていけるように心掛けている。	利用者一人ひとりの状況を職員は把握しており、時間を見つつ声掛け誘導を行い、見守りながら自尊心に配慮して、さりげない支援を心掛けている。約半数の方は全介助で、自立や誘導の方もいる。水分は一日の目安として1,200CCを目指して、それぞれの体調を見ながら水分摂取に取り組み、排便や体調管理に繋げている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時の水分や乳製品の摂取、食事内容のバランス、毎日の体操で予防に取り組んでいる。必要に応じ薬の処方を見直し、主治医に相談し、便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日は決めず、おおよその順番を決めているが、本人の希望により変更できる体制である。入浴時間は体調に留意しながら本人の希望に沿っている。	入浴は利用者の体調や希望を確認し、気持ちや生活習慣に合わせて入浴方法や曜日などを臨機応変に対応している。入浴はお昼頃から16時の間に行い、入浴剤を使用するなど日々の風呂も楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の就寝時間は決めず、個々の希望の時間に休まれている。午睡も同様だが、体調を見て声掛けさせて頂いている。室内温度、湿度の調節をして、快眠できるよう留意している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一覧表を保管し、薬の理解、把握に努めている。状態にあわせ主治医と相談して、変更のある場合は記録に残し、周知徹底を図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりに役割を持って頂き、生きがいがつながるよう支援している。本人の希望、生活歴、家族の情報等から楽しみや満足感が得られるよう、プランを立てて実行できるよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	現在感染症の影響で、密になる場所は避けられているが、天気の良い日はホームの外に出たり、ドライブに出かけたり、本人の希望に沿って行っている。	外出支援の計画は一年分を年度初めに立て、職員の担当を決めている。気分転換を兼ねて法人までドライブに出かけたり、広い庭で外気浴をしながら洗濯物を干したり、ホーム周辺の景色や庭の花や木々を眺めたりしている。この秋は、利用者にも人気の「栗拾い」に出かけ、沢山の栗を収穫した。	

なでしこ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在は感染症の影響で、希望があったら職員が代行していたが、少しずつ緩和されている為、時期なども考慮し、行事など参加時は本人が買い物できるように支援していきたいと考えている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙のやり取りや電話は、本人の希望に沿って行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	古民家という事業所の特徴を生かし、落ち着いた雰囲気作りに心掛けている。常に清潔であるように努め、季節の花を庭から切ってきて利用者が生けて飾るなど、生活感を感じ、居心地の良い空間を作るよう努力している。	正面の出入口となるぐり戸は200年前を彷彿とさせ、来客を出迎えて、ホーム内へ導いてくれる。建物の北側には、スロープを配した出入口が設けられている。磨き込まれた黒光りの柱や床が居心地の良さを伝えてくる。天井にはシーリングファンが取り付けられており、部屋の温度を快適に保つよう工夫されている。壁には利用者の筆字の唄が飾られてあり、やすらぎの空間になっていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間は一人になるスペースはないが、思い思いに過ごすことが出来、利用者同士で楽しめる場所は作られている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は使い慣れたタンスや写真、飾り物など置かれ、家族が本人のことを思い作られ、居心地の良い工夫がされている。	利用者は使い慣れたタンスや衣装ケースを持ち込んでいる。大きな壁ボードには写真や手紙や折り紙の作品が飾られており、一人ひとりがその人らしく過ごせる居心地の良い居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の動線を考え、使いやすいように配置している。安全については、手すりや足元の灯りを点けるなど、個々の力に合わせた対応を話し合い確認している。		